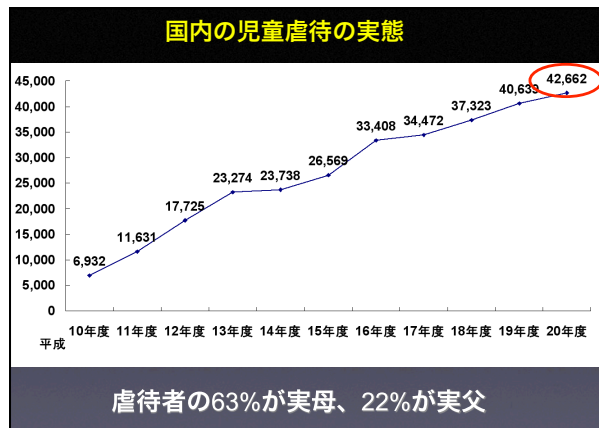


被虐待児症候群の原因
Battered Child Syndrome (Kempe, 1962)

- 暴力による身体的虐待
- 性的虐待
- 精神的虐待
(ことばの暴力, 両親間のDV目撃など)
- ネグレクト
(子ども遺棄, 栄養不良, 極端な不潔, 育児怠慢)

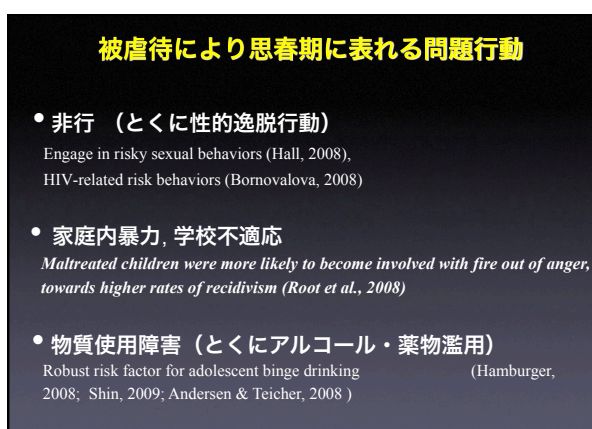
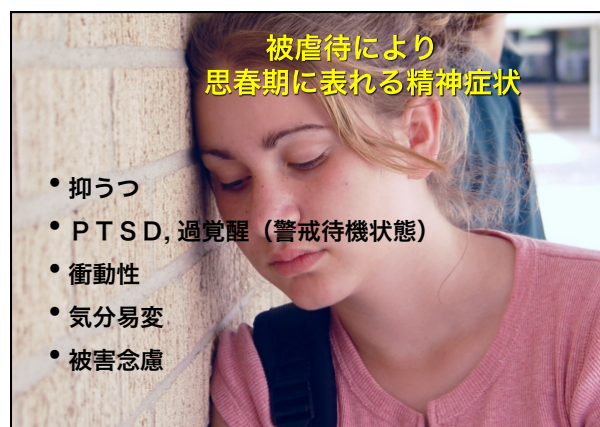
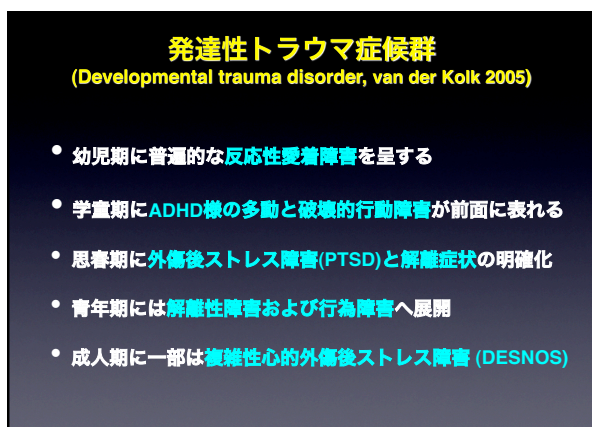
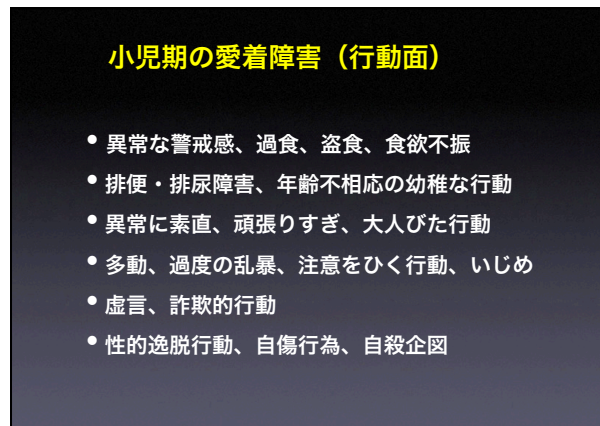


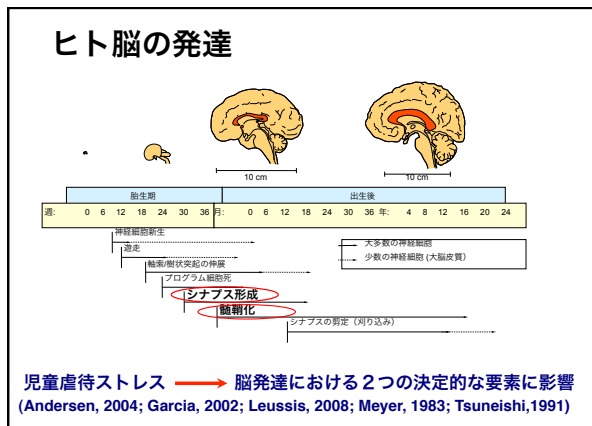
児童虐待と成人後の精神疾患
(Dube, 2003; Chapman, 2004; Anda, 2006)

- 大うつ病
- アルコール・薬物依存
- 心的外傷後ストレス障害 (PTSD)
- 解離性同一性障害
- 境界性人格障害

50~78% Population-Attributable Risk







私たちの仮説

- 子どもの脳は身体的な経験を通して発達していく中で虐待という激しいストレスの衝撃が脳に**いやされない傷**をきざみつけてしまう
- 脳の発達に影響を及ぼしてしまう

虐待を受けて大人になった人の脳は “壊れた”ハードドライブ

Ann NY Acad Sci (2006)

児童虐待が発達脳に与える影響

(仮説) **社会性発達障害**
発達障害類似の行動をとる
後の人格障害を作り出す可能性

Neurobiological Consequences of Early Stress and Childhood Maltreatment (Teicher & Tomoda, Ann NY Acad Sci 2006)

Kindling 現象

(Lieblish & Amari 1978)

虐待という強いストレスがなくなっても僅かな刺激でも**扁桃体の異常な興奮**が持続

↓

扁桃体の異常活動が脳波異常として見られる

(Ito et al., J Neuropsych Clin Neurosci 1994)

大量のコルチゾルが脳の発育を遅らせる

幼児期ストレス 被虐待ストレス

↓

扁桃体が過剰に興奮する (Kindling現象)

↓

HPA系機能上昇による大量のコルチゾル放出

↓

脳の発達がダメージを受ける

母親の養育行動 (遺伝的素因)

- ドパミン関連遺伝子 (DRD4, DAT) の多型性によって異なる (van IJzendoorn, 2008; Lee, 2008)
- セロトニントランスポーター遺伝子(5-HTTLPR), オキシトシン受容体遺伝子 (OXTR) の多型性も養育行動に影響 (Bakermans-Kranenburg, 2008)

↓

養育行動は遺伝的に決められている可能性